メディアセンターの活動の記録＜2023年度＞

メディアセンター本部

1．「慶應義塾図書館史Ⅱ」の刊行

10月に「慶應義塾図書館史Ⅱ」を刊行した。これは1972年に刊行された「慶應義塾図書館史」の続編となるもので，メディアセンターの前身となる研究・教育情報センターが発足した1970年から2019年度末までの50年間のメディアセンター（図書館）の歴史をまとめたものである。本書は冊子で刊行したほか，PDF版を慶應義塾大学学術情報リポジトリ（KOARA）でも公開した。

2．国立台湾図書館と学術交流協定を締結

2024年３月に須田所長ほか２名が国立台湾図書館を訪問し，学術交流協定を締結した（発効は４月１日）。この協定は両図書館の国際的な活動を促進するもので，相互の出版物や学術資料の交換，職員の交流などを行うものである。

3．早慶和書電子化推進コンソーシアムの活動

活動２年目となる2023年度は，実験的プロジェクトによる和書の電子書籍提供を継続したほか，以下の活動を行った。

・６月に早慶の学生・教職員を対象に利用状況や要望に関するアンケートを実施し，その結果を参加出版社にフィードバックした。11月にはアンケート回答者の中から学生数名に対してインタビューを実施した。
・６月末に，参加出版社（光文社）の協力により早稲田，慶應両大学図書館において，トークイベントを実施した。
・６月～７月にかけて理工学，日吉，湘南藤沢にて電子書籍に関する展示を行った。

4．第20回研修会の開催

「AI時代の図書館の役割」をテーマに，三田・北館ホールとZoomウェビナー併用のハイフレックス形式で開催した。講演者は，岸田和明氏（文学部教授），矢向高弘氏（システムデザイン・マネジメント研究科教授・AI・高度プログラミングコンソーシアム代表），佐藤嘉能氏（クラリベイト・アナリティクス・ジャパン株式会社）の３名。メディアセンター以外の職員も含めて144名が参加した。

5．セインズベリー日本藝術研究所との交流再開

コロナ禍により2019年度を最後に途絶えていた交流を再開した。９月～12月の３か月間スタッフ１名が先方に滞在し，この期間中に先方の業務を学んだほか，EAJRS（日本資料専門家欧州協会年次大会）への参加や英国及び欧州の図書館の調査を通じて幅広い知見を得た。

6．Resouce Lists（Leganto）サービスの終了

2021年度から開始した当サービスであったが，その後の利用状況の伸び率や義塾のICT関連予算状況などから総合的に判断した結果，2023年度末でこのサービスを終了した。

三田メディアセンター

1．館内施設・設備

⑴　利用者スペースの利便性および安全性を向上させるため，年間を通して什器の刷新や館内工事を実施した（新館２階東閲覧室全席への電源コンセント設置および椅子の買い替え，書籍落下防止装置の取り付け他）。
⑵　４階セミナー室３を「声出しブース」にリニューアルし，運用を開始した。学生用の設備で，発話を伴う語学学習，プレゼンや演習発表練習，オンラインでのグループ学習やゼミ活動などに用いる（４月３日）。
⑶　選書担当事務室が，１階事務スペースから５階（旧５階閲覧室）に移転した（９月８日）。
⑷　KICプリントサービス用プリンタが１階エレベータホールに設置され，それまで３階エレベータ前に設置されていたITC統合プリンタは撤去された（３月14日）。

2．各サービスおよび業務

⑴　2023年度より三田キャンパス全ての研究科で修士論文がPDF提出になった。これを受け，

修論の収集・提供に関わる各種書式を改訂した（５月30日）。

⑵ 10月のインボイス制度の導入に伴い，一日入館券，塾員入館券，塾員貸出券の各種申請書・領収書，相互貸借サービスの領収書などの様式を変更した（９月22日～25日）。

⑶ レファレンス資料利用度調査を開始した（調査期間：10月10日～2024年９月30日）。

⑷ 2024年度予算申請で，前年度支出実績に基づき図書支出から図書資料費へ予算額付け替えを申請した。

⑸ 「中國方志叢書」4,056冊，「中國名著選譯叢書」100冊を山中資料センターに移動した（11月29日）。

３．学内協力活動

⑴ ４年ぶりにオープンキャンパス2023が開催され，２日間で延べ10,357人の来館（退館ゲートカウント）を記録した。前回（2019年度）と比較すると約3,000人の増加であった。入学センターの集計によるとオープンキャンパスの来場者は約12,000名で，大半がメディアセンターに来館したことになる（８月４日～５日）。

⑵ 文人・久保田万太郎の没後60年を記念して，慶應義塾大学久保田万太郎記念資金および文学部の主催で，展示「久保田万太郎―時代を惜しみ，時代に愛された文人」が開催された（11月28日～12月23日　於１階展示室）。

４．学外協力活動

「中津川家文書」が港区有形指定文化財に指定され，告示された。「反町文書」「曲直瀬家文書」に続き３件目の指定となる（10月12日）。

日吉メディアセンター

１．施設・設備の整備

⑴ ２階，３階にデジタルサイネージを各１台新設した（４月）。

⑵ 館内冷水器をマイボトル対応のウォーターサーバに交換した（７月）。

⑶ スタディサポートデスク前の低書架４台のうち使用していない１台を撤去した（７月）。

⑷ AVホールについて，空調機の交換（７月），映像装置の交換（８月～９月），入口照明の人感センサー対応（２月），ホール内への防犯カメラ設置（３月）を行った。

⑸ 建物東側（来往舎側）外壁面の補修工事を行い，窓を遮光窓ガラスに交換した（８月）。

⑹ 館内の照明のLED化工事（２年計画２年目）が終了した（11月）。

⑺ オーバーヘッドスキャナーを購入した（２月）。劣化した資料のオペレーターコピーや，公衆送信サービスが開始された際に使用する。

２．企画・広報・イベント

⑴ 新学期に向けて図書館を紹介する館内ツアー動画をYouTubeで公開した（2023年３月）。

⑵ 新入生対象のセルフオリエンテーリングを開催し，195名の参加があった（４月３日～28日）。通信教育課程夏期スクーリング生に向けても開催し，426名の参加があった（８月４日～19日）。

⑶ 図書館フレンズの活動

・丸善丸の内本店で選書ツアーを実施し（５月），選書した図書の展示を行った（７月～８月）。

・利用者参加型の企画「読んでみて！」を開始した（10月～）。専用の栞を挟んで返却された本の情報を，お勧め本として書架側面に掲示している。

・本の紹介冊子「フレンズ文庫」を「新フレンズ文庫」として５年ぶりに発行した（１月）。

・ビブリオバトル「心が熱くなる一冊」（７月），「ついつい何度も読み返してしまう本」(12月）を開催し，後日，紹介された図書を展示した。

・毎年恒例の「本の福袋」を実施した（12月）。

⑷ HAPP恒例企画のライブラリーコンサートを開催した（弦楽四重奏，ジャズ）（５月）。３年間行った配信を止めて会場での鑑賞のみとした。

⑸ 「早慶和書電子化推進コンソーシアム」の関連企画として「光文社トークイベント：光文社古典新訳文庫はこうやってつくってます」を早稲田大学図書館との共催で実施し38名の参加があった（６月）。編集長（早稲田大学OB）と編集部員（慶應義塾大学OB）によるトークセッションが行われた。

(6) 慶應義塾大学の受験を考えている受験生を対象にオープンライブラリーを夏は4年振りに開催し319名（8月3日～31日），春は6年振りに開催し127名（3月1日～23日）の入館があった。

(7) ライブラリーグッズ（ぴあくろうをデザインしたボールペン，あずまやをデザインした巾着）を作成した（2月）。

3．利用者サービス

(1) 経済学部でほぼ全員が受講する授業「Study Skills」に対して，スタッフが作成した情報リテラシーセミナー動画の提供を開始した。

(2) アカデミックスキルズ履修学生による学習相談の窓口を開設した（春4月17日～7月21日，秋10月16日～1月31日の平日午後）。

(3) 理工学メディアセンターのラーニングサポート（院生）による出張相談を実施した（学期末試験期に春3日間，秋2日間）。

(4) 日吉を中心に作成し2006年に公開した情報リテラシー動画教材「PATH」について，FLASHを使用しているため現在は参照する術がなく公開中止とした（5月）。

(5) 国立国会図書館の視覚障害者等用データ提供館として日吉メディアセンターを登録するため同館と「視覚障害者等用データ収集覚書」を締結した（12月）。

(6) 映像資料の利用推進のため，所蔵する映画等のDVD・ブルーレイのカバーボックス約30点をメインカウンター近くに展示した（3月～）。

4．資料の移動

(1) 新書について，出版年が2009年までの929冊を2階から地下書庫へ移動した（11月）。

(2) 2階バルコニーの軽読書書架を分散配置から集合配置に改めたことで，本が見やすく取り出しやすくなった（2月）。

5．協生館図書室

(1) 「コロナ期間の未貸出新着図書」コーナーを設置（4月～7月）し，2020～2022年の新着図書のうち貸出回数0の1,074冊を展示した。

(2) 新着図書コーナーを拡張し展示期間を一週間から約一か月間に変更した（6月）。

(3) ウェブサイトの「紹介状」の文言を「閲覧申請」に改め関連各ページを更新した（8月）。

(4) ITCアカウント対応PCのリプレースとプリンタの移設を行った（9月）。台数を11台から4台に変更(うちWindows English ver. 1台)。

(5) 防災訓練を契機に非常口誘導サインの点検を行い，室内右手奥一か所を増設した（12月）。

(6) インターフォンの受信機をモニタータイプ（子機付き）へ交換した（3月）。

(7) 図書室内のITCアカウント対応プリンタは，新サービスへの移行を機に図書室外（同フロア）へ移設された（3月）。

信濃町メディアセンター

1．教育・学習支援

(1) 「学習環境に関するアンケート」実施
非来館サービスの充実の一方で，コロナ禍を経て来館者数が減少していることから，今後のメディアセンターにおける利用環境見直しの参考とするため，学生を主な対象として学習環境に関するアンケートを実施した（5月）。

(2) オーダーメイド型講習会の開始
従来の電子リソースミニ講座の後継サービスとして，利用者が学びたい内容や開催日時を自由に選べる「オーダーメイド型講習会」を開始した（10月）。

(3) 館内利用ルールの緩和
信濃町キャンパス方針変更に伴い，利用ルールを緩和した。館内でのマスク着用は個人判断とし，消毒は必須とせず，閲覧席の着席ルールの制限を撤廃した（11月）。

2．研究支援

(1) 「見える化プロジェクト」調査
医学部企画室より依頼があり，各教室（基礎系の場合はさらに細分化した研究室）について，過去5年間の研究業績調査を行った。臨床系は教室ごとの文献数，被引用数，Top10％論文数，h5-index，基礎系は筆頭著者，責任著者の論文掲載誌のインパクトファクターの総数とh5-indexを算出した（12月）。

3．館内リニューアルプロジェクト

⑴　館内リニューアルプロジェクト立ち上げ
「学習環境に関するアンケート」の回答結果を受け，学生の多様な学びをサポートするために図書館機能を見直すプロジェクトを立ち上げた（12月）。

⑵　資料の移動
資料再配置にともない，地下の医学中央雑誌734冊とIndex Medicus674冊，米国医学図書館の目録関連資料146冊を倉庫に移動した(12月)。1階のレファレンス統計資料を2階書庫へ移動し（1月），除籍対象である地下の中国語雑誌49誌（3,646冊）を書架から撤去し，その他のレファレンス資料を地下に移動，1階の視聴覚資料を地下メディアルームに移動した（2月）。

⑶　閲覧エリア機能・利用ルールの変更
書架や机など什器の移動・撤去を行い，1階閲覧室を「マナビバ」，くつろぎ閲覧エリアを「くつろぎ」，地下1階閲覧室を「自習室」，セミナー室を「eラーニングルーム」，グループ学習室を「メディアルーム」と名称変更した。これにともない会話やオンライン授業による発話などの各エリアのルールを変更した（2月）。

⑷　積層書架の撤去
レファレンス資料が配架されていた1階の積層書架を撤去した（2月）。

⑸　ITC端末の撤去・減台
地下セミナー室と1階閲覧室のITC端末の撤去・減台を行った（1月～2月）。マナビバに3台，eラーニングルームに5台，メディアルームには2台を設置した。

4．医療活動支援

⑴　関連病院図書担当者連絡会開催
オンライン（Zoom）で開催し，16機関が参加した。例年行っている関連病院コンソーシアム契約状況報告および信濃町メディアセンター活動報告のほか，参加者より病院図書室の事例報告があった。懇談の時間では活発な情報共有や意見交換が行われた。スタッフによる図書担当初心者向けの文献検索講座を復活させた（2月）。

⑵　健康情報ひろば
新たに3名のボランティアスタッフを受け入れた（5月，8月，1月）。病院で開催された「ボランティア感謝の集い」では，累積の活動時間3,000時間を超えた2名と，4,000時間を超えた1名のボランティアスタッフが表彰された（12月）。

5．資料関連

⑴　山中資料センター配架資料の除籍作業
山中資料センターに配架している信濃町メディアセンター所蔵資料のうち地区内で重複している図書（約3,600冊）の除籍作業を開始した（12月）。

⑵　館内リニューアルに伴う除籍作業
図書（レファレンス資料，PCコーナー図書，国試コーナー図書）483冊と，雑誌（レファレンス資料）95冊，非図書（旧版）662点を除籍した。

6．施設・設備

⑴　ウォークイン端末のリプレース・減台
2018年度に導入したウォークインユーザー用のパソコンのリプレースを行い，OSを最新版に更新した。また利用状況を鑑み，設置台数を2台から1台に減台した（7月）。

理工学メディアセンター

1．施設・設備の改修・変更

⑴　創想館，別館の生協設置利用者用コピー機2台を撤去した（5月15日）。館内コピー機が1台（本館1階・コイン式）となり，学外者も含めセルフコピー料金は一律10円とした。

⑵　本館3階照明のLED化工事を行った（9月1日～3日）。

⑶　本館静かエリア，本館PCエリア，創想館PCエリアのKIC-PCリプレース・撤去を行った（9月1日）。

⑷　創想館PCエリア，学習エリアのレイアウト変更を行った（9月11日）。オンライン面接等を行える場所への要望が高く，マルチエリアに仕切り付き個席を用意し，声出し可能な

エリアとした。

(5) 本館外壁改修工事を行った（９月30日竣工）。

(6) 外部の予約管理システムを用いたセミナールームA/Bのオンライン予約サービスを開始した（10月２日）。

(7) 別館電動書架・通路部分の照明LED化工事を行った（２月10日～11日）。

(8) 防犯カメラの移設・新設工事を行った（２月24日～26日）。

(9) 本館１階静かエリアの机の溝埋め工事を行った（３月30日）。

２．企画・広報・イベント

(1) 2023年度ノベルティグッズとして透明ポケット付き不織布バッグと吸水クロスマルチカバーを作成した。プレゼンバトルへの参加や，オープンライブラリーのスタンプラリープレゼントとして学生や来館者に配付した。

(2) 広報紙「理工学メディアセンターニュース」の紙名となって25年，同デザインの継続が10年，通号250となったのを機に10月号より紙面デザインを一新した。

(3) 選書ツアーを９月21日に丸善ジュンク堂書店池袋本店で行った。POPとツアーの様子の展示パネルを作成し，選定により新規購入した資料97冊の展示を以下の期間に開催した。12月４日～2024年２月29日

(4) 12月に第３回プレゼンバトルを開催し，プレゼンター・観戦者ともに他キャンパスおよび学部１・２年生からの参加を多く得た。教員が講師となるサイエンスカフェは，2023年度内に２回開催し，会場の臨場感を届けられるよう，実演の様子の配信も実施した。

３．利用者サポート・セミナー

(1) 大学院生スタッフによる学部生への学習支援（ラーニングサポート）を対面/オンラインの両方で提供した。研究室選びの相談に特化した広報も行い，多くの利用があった。春と秋の定期試験期間には,日吉での出張相談を実施した。

(2) 文献探索セミナーの形式を対面・オンラインの選択制とすることを定型化し，どちらにも対応できるようスタッフの熟練度をアップさせた。オンラインの件数自体は2022年より減少し，全体の３分の１となった。外部講師によるセミナーは，キャンパスの垣根を越えて学生が受講できるよう，前年度に引き続きオンラインで実施をした。

(3) 文学部図書館・情報学専攻の実習生１名を受入れした（８月21日～９月１日）。

４．資料購入関係

(1) 一般財団法人慶応工学会より学術振興事業の一環として，学生用図書購入のための寄付金15万円をいただいた。

(2) 文科省検定教科書について，数学・理科・工業・情報の４科目のうち，「工業」分について教職課程センターが購入し，理工学メディアセンターに納品，寄贈受入することが決定した。

(3) 図書資料費で支出していた化学系データベース“Reaxys”や国内外の学協会論文誌等の支払いを理工学部間接経費で行った。

湘南藤沢メディアセンター

１．施設関連

・１階に視覚障碍者用歩行点字パネルを設置した（４月）。

・湘南藤沢キャンパス内のごみ廃棄ルール変更（分別強化）に伴い，館内のごみ箱の再配置を行った（５月）。

・コピーカードサービス終了に伴い，２階に設置されていたカード式コピー機を撤去した（５月）。

・３階の冷水器をノズル付きに交換した（７月）。

・館内の各窓のブラインドを刷新した。また破損回数が多い箇所についてはブラインドではなくロールスクリーンを導入した（８月）。

・エントランス（風除室）の自動ドアセンサーの修理と漏水対策とあわせて屋上の清掃を行った（８月）。

・１階オープンエリアにアームデスクラウンジチェア１脚と３階書架横にスクエアタイプテーブル付きチェア５脚を新しく導入した（１月）。

・サイネージ利用のため，移動式AV機材（98インチモニタ＋マイク関連）を導入した（１月）。

・メディアセンター内で防災訓練を実施した（３月）。

2．ライブラリーサービス関連

⑴　サービス

・合成音声による館内放送を開始した（４月）。

・湘南藤沢高校生の利用可能エリアを試験的に拡大した（12月）。

⑵　イベント

・新入生向けの体験型謎解きイベント「カモからの挑戦状」を開催した（４月～５月）。

・１階オープンエリアで加茂研究会と防衛研究所のトークセッションを開催した（10月）。

・SFC万学博覧会の開催にあたり，メディアセンターでは館内見学に加え，3Dプリンタの体験会を実施した（11月）。

⑶　資料移動

・Z館101に置かれていたSFC10年史アーカイブ資料をZ館サーバースペースに移動した（11月～12月）。

・３階に配架されていた文庫と新書を２階へ移動した（２月～３月）。

・「SFCコレクション」を新着書架へ移動した（２月～３月）。

⑷　学生コンサルタントの活動

・ライティング＆リサーチコンサルタントはSFC万学博覧会においてポスター展示「「SFCで研究する」ってどんなだろう？WRCと一緒に考えましょう！」およびSFC学会で活動内容の発表を行った（11月）。

・データベースコンサルタントはプレゼンテーションバトル「好きな＊＊（コト）」を開催した（12月）。

・メディアセンターフレンズはイベント１件，企画展示２件，X（旧Twitter）企画３件を行った。

＊イベント

－タンデムラーニング説明会（４月）

※担当者の卒業により，タンデムラーニングは2023年度を以て活動を終了した。

＊企画展示

－早慶和書電子化コンソーシアム関連企画「わたしの推しの光文社古典新訳文庫」（６月）

－「知らなかったカモ！メディアセンターのこんなヒミツ」（７月）

＊X（旧Twitter）企画

－「パレスチナ・イスラエル問題を考える～今ガザで起こっている，歴史的・構造的な問題を知るために～」（12月）

－「2024年学び始め～正月ってどんなもの？～」（１月）

－「福沢諭吉が訳した言葉たち」（１月）

3．マルチメディアサービス関連

⑴　サービス関連

・メディアセンター地下施設を含む教室などの360°室内画像を公開した（４月）。

・SONY社から137インチLEDディスプレイを借用し，１階オープンエリアに設置した（11月～１月）。

・簡易モーションキャプチャーのmocopi（１個）貸出を開始した（４月）。

・配信機器の故障のため，海外衛星放送サービスを終了した（12月）。

⑵　AV機材のリプレース

・3DプリンタUltimaker S7（４台）を追加導入した（４月）。

・６色刺繍ミシンを追加導入した（４月）。

・貸出用カメラをEOS R（22台）からEOS R6 MarkⅡ（15台）にリプレースした。

4．看護医療学図書室関連

⑴　施設関連

・看護医療学部校舎のごみ廃棄ルール変更（ごみステーション化）に伴い，図書室内のごみ箱を撤去した（11月）。

・CNSプリンタの小型化により，利用者スペースに余裕ができたため，大テーブル周辺に一人掛けソファを追加導入した（２月）。

・経年劣化のため，図書室内の各窓ブラインドを刷新した（３月）。

⑵　ライブラリーサービス関連

・授業期間平日の閉室時間を21時に変更し，2019年度以前の状態へ復旧した（７月）。

・「ぽれぽれ文庫」コレクションの入替作業を行った（９月）。

・ジェルクッションのレンタルサービスを開始した（１月）。

⑶　企画展示

・「大学生活スタートBOOK」（４月～５月）。

・「『今日の看護医療』ゲストスピーカー関連資

料」(６月～７月)。

薬学メディアセンター

１．全般

(1) 芝共立キャンパス入構方針の変更に伴う入館制限

芝共立キャンパスではコロナ禍を機に入構を制限してきたが，今後もセキュリティおよびセーフティ保持・強化の一環として，入館制限を継続することとなった。これを受けて，薬学メディアセンターにおいても薬学部・薬学研究科所属の学部生・大学院生，慶應義塾の教職員については入館自由とするが，それ以外の利用希望者は引き続き事前申込や紹介状持参を必須とすることとした。

(2) 港区立高輪図書館との連携企画（11月～2024年１月）

研究協力や講演会等を通じて同館とつながりがあった薬学部教員を通じて連携の申し入れがあり，展示を企画した。11月半ばから２か月間，高輪図書館において薬学部のあゆみとして共立薬科大学史や写真アルバム等を貸し出して展示したほか，薬学部生・スタッフの推し本（医薬品情報学講座協力），薬学関連資料を陳列した。

(3) 東京慈恵会医科大学学術情報センター 図書館との相互協力協定の終了（12月）

芝共立キャンパスの入構規制が強化されたことや少なくとも過去５年は利用の実績がなかったことをふまえて協定の終了を申し入れ，先方でも了承された。今後は他の大学と同様の手続きにより（事前照会・紹介状発行）利用可能となった。

２．施設・設備

(1) 事務室・カウンター改修工事（８月）

３階事務室の東側の壁を撤去してカウンターを設置し，カウンターがあった北側開口部にはパーティションを取り付けた。カウンターを入口側に向けて入館者チェックをしやすくしたほか，閲覧席側をパーティションで塞ぐことで事務室内の話声を漏れにくくした。

(2) ハイカウンター席の新設（２月）

西側の一角にハイカウンターとハイチェア３脚を設置した（本号表紙写真）。

(3) AV資料の書架撤去（１月）

パイプ・ダクトスペースの扉を塞いでいたAV資料の書架を撤去した。

(4) 閲覧席の椅子129脚をクリーニング（２月）

業者に依頼し，129脚の張地を洗浄・吸引によりクリーニングした。

３．利用者サービス

(1) 2023年度開館スケジュールと運用変更

・前年度の学生アンケートで，試験前の開館日増加を求める意見が多かったことを受けて，定期試験中だけでなく定期試験前にも日曜臨時開館を実施した。

・祝日授業日の閉館時刻を21：00から18：00に変更した。

・７，12，２月（閑散期）土曜の委託職員を２名から１名に変更（昼１時間はカウンター休止）した。

４．資料関連

(1) VHSテープの除籍

薬学メディアセンターで所蔵しているVHSテープの資料は希少性がなく，ここ数年間利用需要も極端に乏しいことから，図書の付録を除くほぼすべてのアイテムを除籍した。

(2) 年刊資料の過去分除籍について

毎年刊行されバックナンバーが増え続けるタイプの資料について，内容の陳腐化やカビ対策，スペースの有効活用という側面から旧版保存の必要性を検討することにした。各分野の専門教員に評価を依頼し，保存不要対象となった資料のリストを教授総会に提案して承認された。除籍作業は順次行うこととなった。

５．その他

(1) 会場提供と運営補助

2023年の日本薬学図書館協会研究集会が８月31日に芝共立キャンパス２号館４階大講堂で行われ，会場校として運営をサポートした。